

アジアにめざめたら

Awakenings: Art in Society in Asia 1960s-1990s

アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代

本展はかつてないスケールで、アジア各地の現代アートの黎明期である1960年代から1990年代に焦点をあてる展覧会です。10を超える国と地域から、激動の時代に生まれた挑戦的かつ実験的な約140点の作品を一堂に集め、その共通点と違いを発見していきます。日本、韓国、シンガポールの国立美術館3館と国際交流基金アジアセンターによる5年に及ぶ共同プロジェクトの集大成として日本で開幕、その後韓国とシンガポールに巡回します。

アジア各地のアヴァンギャルド・アートが東京に集結！



①

②



① ジム・スパンカット《ケン・デデス》1975/1996年
ナショナル・ギャラリー・シンガポール蔵

② ワサン・シッティケート《私の頭の上のブーツ》1993年
作家蔵 撮影：マニット・スリワニチブーン

会期 2018年10月10日〔水〕 - 12月24日〔月・休〕

会場 東京国立近代美術館 企画展ギャラリー〔1階〕

本展のポイント

■ 東アジア・東南アジア・南アジアという広範囲を対象に、1960年代から1990年代に発生した近代美術から現代美術への転換期に焦点をあてる初の展覧会です。

■ 本展は、東京国立近代美術館、韓国国立現代美術館、ナショナル・ギャラリー・シンガポールと国際交流基金アジアセンターによる、アジアの戦後美術を再考する5年に及ぶ国際共同プロジェクトの集大成です。日本で開幕し、その後2019年にかけて、韓国とシンガポールに巡回します。

■ 日本、韓国、台湾、中国、香港、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、インドなど、10を超える国と地域の90組以上の作家による約140点の作品が東京に集結。絵画、彫刻、版画、写真、映像、パフォーマンス、インスタレーションなど、多様なアヴァンギャルド・アートを一挙にご紹介します。

■ この時期のアジアは、植民地支配からの独立と急速な近代化、東西冷戦によるイデオロギーの対立やベトナム戦争の勃発、民族間の対立や民主化運動の高揚など、社会を揺るがす大きな出来事が続きました。今回ご紹介するのは、その時代を生きたアーティストたちが、自らの生きるローカルな現実にとって「美術」とは何かを問いかけ、既存のジャンルにとどまらない表現方法を開拓した末に生まれた、挑戦的かつ実験的な作品の数々です。

■ 本展では、時代や場所の異なるアートを、国の枠組みを越えて比較することで、思いがけない響き合いを発見することを目的としています。近年、アジアからの観光客が急増し、日本とアジアの文化交流が新たな段階に移行しつつある中、本展で得られる体験は、アートと世界の見方を変え、アジアとの新たな関係を築くヒントに繋がるでしょう。

展覧会の構成

時系列や国・地域の枠にとらわれず、テーマごとに分類した3章から構成されています。第1章では「美術」の表現方法が多様なメディアに拡張していく局面を、第2章では新しい芸術動向が展開した「都市」という舞台を、第3章では社会の変革につながる「集団」を形成するアートの力を考察します。アジアの多様な歴史とアートの変化をつなぐ、いくつもの視点が盛り込まれています。

■ イントロダクション

展覧会の全体像を理解しやすいよう、今回取り上げるアジアの地域とその複雑な社会背景を、時代を象徴する作品に地図や年譜を加えて紹介します。

■ 1 「美術」を問い直す … 新たな表現方法の開拓

1968年以降世界中に波及した学生運動を契機に、アジア各地では近代化に対する問題意識が芽生え、「美術」という西洋由来の概念にも疑問が投げかけられました。若い作家たちは、従来の絵画や彫刻という形式にとらわれず、自らの身体や日常的な素材を活用し、それぞれの地域性に即した新たな表現方法を開拓していきます。

絵画を燃やすダダ的な行為や、ギャラリーの中に酒場を仮設する体験型のイベントなど、「美術」という制度を批評する仕事とともに、石、クッション、ガラス、わら、ドライアイスなど物質との新たな対話をうながす作品を紹介します。

■ 2 芸術家と「都市」 … 新しいアートが展開した場

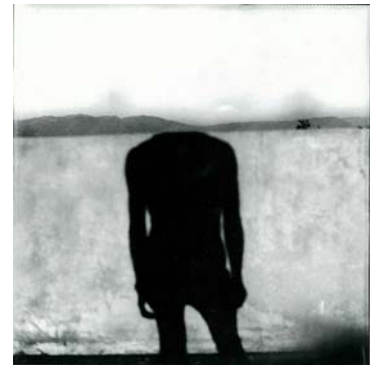
1960年代以降、アジアの主要都市では、急速に進行した近代化によって人々の生活が激変しました。同時に消費社会による共同体の崩壊や貧困問題、民族紛争など都市の日常に潜んでいる矛盾が強く意識されるようになりました。

光と影の両面をもつ都市のイメージを新鮮な感覚で表現した映像作品や、広告イメージを活用して消費社会を皮肉るような絵画が登場します。さらに美術館やギャラリーを飛び出して路上という公共空間でパフォーマンスが行われました。このように「都市」は実験的な表現をはぐくむ場となったのです。

■ 3 新しい「連帯」を求めて … アーティスト・グループの誕生

自由を求める若い表現者たちは、抑圧的な体制や社会的なタブーにも臆することなく、新しい表現を可能にするスペースをこじ開けようとしてきました。

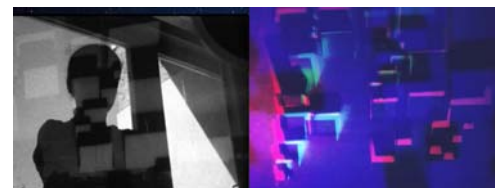
民衆との「連帯」を主張するマニフェストを掲げるグループや、ジャンル横断的な活動を展開したグループなど、多くの芸術家集団が誕生したのもこの時期の特徴です。とりわけ民主化運動の過程では、壁画やバナー、看板、ビデオなどを使ってリアルな現実を多くの人々と共有する試みが登場しました。アジアの現実をめざめた作家たちは、アートがもつコミュニケーションの力に活路を見いだしたのです。



③ 張照堂《板橋》1962年 作家蔵



④ FX ハルソフ 《くつろいだ鎖》1975/1995年
ナショナル・ギャラリー・シンガポール蔵



⑤ ナリニ・マラニ《ユートピア》1969/1976年 作家蔵
Courtesy of the Artist and Vadehra Art Gallery



⑥ パブロ・バエンス・サントス《マニフェスト》1985-87年
ナショナル・ギャラリー・シンガポール蔵

出品作家・グループ（一部）

- 日本：ゼロ次元、中村宏 ● 韓国：キム・グリム、ホン・ソンダム ● 台湾：張照堂、陳界仁
- 中国：王晋、宋冬 ● 香港：エレン・パウ、フロググ・キング
- インドネシア：FX ハルソノ、ジム・スパンカット
- シンガポール：タン・ダウ、ラジェンドラ・グール
- タイ：モンティエン・ブンマー、アーティスト・フロント、ワサン・シッティケート
- フィリピン：ホセ・テンス・ルイス、パブロ・バエンス・サントス
- マレーシア：レッザ・ピヤダサ、ウォン・ホイ・チョン
- インド：ナリニ・マラニ、グラムモハメド・シェイク

広報用画像作品のワンポイント解説

①

ジム・スパンカット《ケン・デデス》1975/1996年
ナショナル・ギャラリー・シンガポール蔵

古代ジャワの女神ケン・デデスの胸像と、ジーンズ姿の半裸の女性像のイメージが無理やり縫合されたこの作品は、異文化衝突のインパクトとインドネシアの複雑なアイデンティティを物語る。スパンカットは、インドネシアで1975年に誕生した「ニュー・アート・ムーブメント」に参加し、この作品のオリジナルを発表した。



②

ワサン・シッティケート《私の頭の上のブーツ》1993年
作家蔵 撮影：マニット・スリワニチブーン

タイの政治的、社会的主題を描く表現主義的な絵画や版画で知られるシッティケートだが、90年代の半ばからビデオ、パフォーマンスにも取り組むようになった。この作品は、軍人が使用するブーツを頭上に載せた作家が、スーツ姿でバンコク街を散策するというユーモラスな映像。シンプルな設定ではあるが、タイの歴史や社会への想像が広がってくる。



③

張照堂《板橋》1962年
作家蔵

この頭部のない人間のシルエットは、台湾を代表する写真家張照堂が1960年代前半に撮影したもの。シュルレアリスムの影響を受けた、青年期特有の実存主義的な表現といえよう。しかし、1948年から1987年までの約40年間、台湾が戒厳令下にあったことを思い起こせば、この無頭の人像は、同時代の政治的な状況を映し出しているともいえる。



④

FX ハルソノ《くつろいだ鎖》1975/1995年
ナショナル・ギャラリー・シンガポール蔵

スパンカットと同じく、インドネシアの「ニュー・アート・ムーブメント」の主要作家の一人。日常生活で使用されるクッションが鎖で縛られ、ミニマルな立体に姿を変えている。身体を休ませるはずのクッションを拘束する力を通して、スハルト政権下の日常に浸透する権力の形を映し出しているのかもしれない。



⑤

ナリニ・マラニ《ユートピア》1969/1976年
作家蔵
Courtesy of the Artist and Vadehra Art Gallery



インドを代表する女性アーティストの初期映像作品。二面プロジェクションの右側のスクリーンには、理想的な都市のイメージが明るい色彩をつかった抽象的なパターンとして描き出される。左側のスクリーンに投影されるのは、ビルの窓から外を見つめる女性の姿のモノクロ映像。タイトルとは裏腹に、ネルー政権の社会主義政策の理想と現実のギャップを、女性の視点から批評的に捉えている。





⑥

パブロ・バエンス・サントス《マニフェスト》
1985-87年 ナショナル・ギャラリー・シンガポール蔵



1976年にタガログ語で「連帯」を意味する「カイサハン」という芸術家集団を結成した中心的作家。マルコス体制の様々な矛盾を、リアリズムの手法を駆使した「読む絵画」によって提示し、民主化運動に直接的に加担していった。メキシコの壁画運動の影響を受けたサントスは、誇張された遠近法を用いて、「ピープル・パワー」が爆発した歴史の転換点を劇的に描き出している。

開催概要

タイトル (日) (英)	アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990 年代 Awakenings: Art in Society in Asia 1960s-1990s
読み方	あじあにめざめたら：あーとがかわる、せかいがかわる 1960-1990 ねんだい
会期	2018 年 10 月 10 日 [水] - 12 月 24 日 [月・休]
会場	東京国立近代美術館 1 階 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
主催	東京国立近代美術館、国際交流基金アジアセンター、 韓国国立現代美術館、ナショナル・ギャラリー・シンガポール    
開館時間	10:00 - 17:00 (金・土曜は 20:00 まで) 入館は閉館の 30 分前まで
休館日	月曜日 (12/24 は開館)
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口より徒歩 3 分
観覧料	一般 1,200 (900) 円、大学生 800 (500) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 高校生以下および 18 歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 (1 名) は無料。 * 本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4-2F)、 「遠くへ行きたい コレクションを中心とした小企画」(2F ギャラリー 4) もご覧いただけます。 無料観覧日：11 月 3 日 [土・祝] 文化の日
リピーター割引	本展使用済み入場券をお持ちいただくと、2 回目以降は特別料金でご覧いただけます。 (一般 500 円、大学生 250 円)
お問い合わせ	03-5777-8600 (ハローダイヤル)
ホームページ	http://www.momat.go.jp
同時開催	2018 年 10 月 6 日 [土] - 2019 年 1 月 20 日 [日] 所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4-2F) 2018 年 10 月 6 日 [土] - 2019 年 1 月 20 日 [日] 「遠くへ行きたい コレクションを中心とした小企画」(2F ギャラリー 4) * 観覧料：一般 500 (400) 円、大学生 250 (200) 円 * 高校生以下および 18 歳未満、65 歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 (1 名) は無料。 * () 内は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込。
巡回	韓国展：2019 年 1 月 31 日 [木] - 5 月 6 日 [月] シンガポール展：2019 年 6 月中旬～9 月中旬 (予定)

【報道関係お問い合わせ先】

「アジアにめざめたら」広報事務局 (ユース・プランニング センター内)
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 ヒューリック渋谷一丁目ビル 3F
TEL: 03-5467-8638 FAX: 03-3499-0958 E-MAIL: asia@ypcpr.com